

オオバの新ウイルス病およびシソサビダニの防除



写真1 シソモザイク病の症状



写真2 シソサビダニによるオオバのさび症

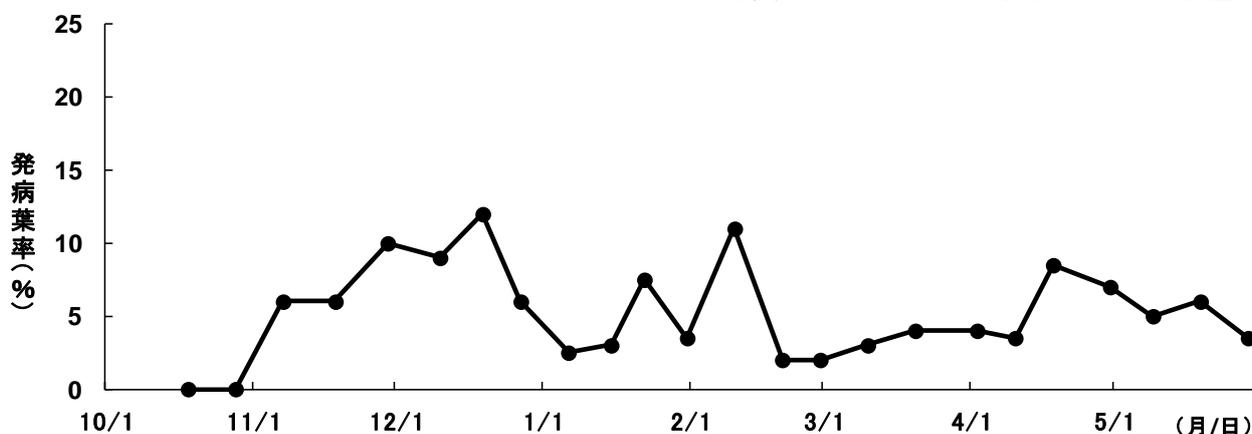


図 10月定植のオオバにおけるシソモザイク病の発生推移(平成25~26年)

平成12年頃から県内のオオバで原因不明のモザイク症(写真1)が見つかり、被害が問題となっています。

平成23~25年度に実施した(独)農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター(以下中央農研)との共同研究の結果、本症状は新種のウイルスが原因の病害であること、シソにさび症(写真2)を起こすシソサビダニによって媒介されることが明らかとなり、シソモザイク病と命名されました。本病の発生は秋季に増加することが多いですが(図)、病原ウイルスが世界的にも報告のない新たなウイルスで、シソサビダニについても平成24年に見つかったばかりのダニであることから、生態や防除法などの知見がほとんどありません。また、その後の調査で、本病は愛知県、大分

県でも発生していることが明らかとなりました。

そこで、本病やシソサビダニの防除対策確立に向け、平成27年から中央農研が中心となり、発生県や法政大学と共同で農林水産省の農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「シソサビダニが引き起こすオオバのモザイク病およびさび症の防除体系確立」の課題に取り組んでいます。当センターはシソサビダニとモザイク病の野外での発生生態の解明や防除技術の開発、農薬登録促進を担当し、シソサビダニに有効な薬剤(本誌第81号参照)などを明らかにしてきました。今後は、これまでの成果を活かし防除技術の体系化に取り組む予定です。

(生産環境課 広瀬拓也 088-863-4915)